

コメント

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

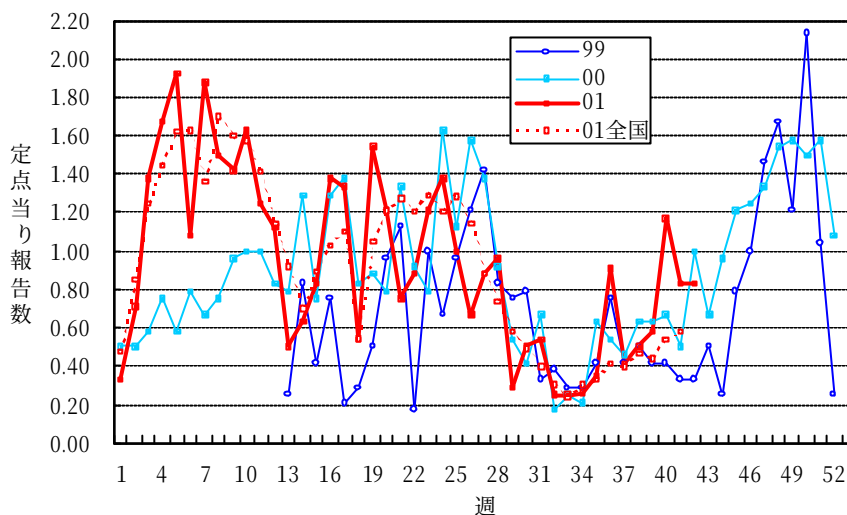
定点当り0.83人と報告数は横ばい
です。安芸区で定点当り0.00人となっ
ています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



定点当りの報告数
4以上
2以上4未満
2未満

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



4類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号	疾病名	報告数	定点当り	前年同期	発生記号
インフルエンザ	-	-	-		麻疹 注1)	-	-	-	
咽頭結膜熱	4	0.17	0.08		流行性耳下腺炎	28	1.17	0.42	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	0.83	1.00	→	急性出血性結膜炎	-	-	-	
感染性胃腸炎	62	2.58	1.46	→	流行性角結膜炎	9	1.13	1.63	
水痘	14	0.58	0.96	↗	急性脳炎 注2)	-	-	-	
手足口病	14	0.58	0.75	→	細菌性髄膜炎	1	0.14	-	
伝染性紅斑	5	0.21	0.17		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.14	
突発性発疹	27	1.13	1.00		マイコプラズマ肺炎	7	1.00	-	
百日咳	-	-	-		クラミジア肺炎 注3)	-	-	-	
風疹	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	0.08	0.13						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		殆ど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

注1) 成人麻疹を除く

注2) 日本脳炎を除く

注3) オウム病を除く

1類～4類感染症報告状況 (全数把握対象分)

報告はありません。

4類感染症報告状況の推移（定点把握対象分）

		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパ ンギー ナ	麻疹 （注1）	流行性 耳下腺 炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	急性脳 炎（注2）	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎 （注3）	クラミ ジア肺 炎	成人 麻疹
報告数	広島市	第40週	-	2	28	49	13	14	6	18	1	-	6	-	17	-	10	-	6	2	-	-
		第41週	-	2	20	63	11	14	5	14	-	-	1	-	38	-	8	-	1	4	-	-
		第42週	-	4	20	62	14	14	5	27	-	-	2	-	28	-	9	-	1	7	-	-
定点 当り	広島市	第40週	-	0.08	1.17	2.04	0.54	0.58	0.25	0.75	0.04	-	0.25	-	0.71	-	1.25	-	0.86	0.29	-	-
		第41週	-	0.08	0.83	2.63	0.46	0.58	0.21	0.58	-	-	0.04	-	1.58	-	1.00	-	0.14	0.57	-	-
		第42週	-	0.17	0.83	2.58	0.58	0.58	0.21	1.13	-	-	0.08	-	1.17	-	1.13	-	0.14	1.00	-	-
	広島県	第40週	0.03	0.11	0.68	2.31	0.55	0.59	0.09	0.75	0.01	-	0.27	-	0.71	-	0.80	-	0.29	0.24	-	-
		第41週	-	0.18	0.59	2.22	0.68	0.62	0.12	0.57	-	-	0.07	0.01	0.85	-	1.25	-	0.05	0.48	-	-
	全国	第40週	0.02	0.06	0.54	2.04	0.58	0.56	0.17	0.89	0.01	0.01	0.27	0.04	1.33	0.04	1.03	0.00	0.06	0.24	0.01	0.00
		第41週	0.02	0.05	0.58	2.10	0.60	0.60	0.18	0.75	0.01	0.01	0.19	0.04	1.21	0.02	0.97	0.00	0.01	0.23	0.01	0.01

（注1）成人麻疹を除く （注2）日本脳炎を除く （注3）オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	住所	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	4	女	東区	2001/09/01	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
無菌性髄膜炎	1	男	安佐北区	2001/09/10	髄液	ムンプスウイルス
無菌性髄膜炎	4	男	安佐北区	2001/09/13	髄液	エコーウイルス11型
無菌性髄膜炎	4	男	安佐北区	2001/09/14	髄液	コクサッキーB5型

【参考】炭疽

本症は炭疽菌により主として草食動物に発症する家畜の法定伝染病である。ヒトにも感染を引き起こし、感染経路により3つのパターンに分かれる。

1. 皮膚の傷口から菌が侵入し、潰瘍状の病変を生じる。90%はこの皮膚炭疽が占め、抗生剤の使用により死亡率は低い。
2. まれなケースとして菌が口から侵入した場合、出血性腸炎等の腸炭疽を引き起こし、治療が遅れると死に至る場合もある。
3. 非常に特異なケースとして、菌が鼻から侵入し肺に到達した場合、急性出血性縦隔炎等を呈する肺炭疽が発生し、死亡率は高くなる。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2001年第42週（10月15日～10月21日）